

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホーム やすらぎ (ユニットやすらぎ)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	平成23年1月27日	評価結果市町村受理日	平成23年2月25日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902611&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・普段からスタッフや入居者同士のコミュニケーションを大切にし、それぞれのペースを尊重しながらゆったりと生活できるような関係づくりを心がけている。また、ボランティアや地域の方の協力によるレクリエーションやお祭りへの参加など、スタッフが交代で企画しながら共に楽しむ機会を持っている。

・職員個々で年間の目標・行動計画を立てて、入居者との関わりや業務改善など課題に取り組み、面談の中で振り返りを行なっている。資格取得や内外の研修に積極的に参加し自己研鑽できる環境を作っている。

・心身の状態変化に早期に対応、関係医療機関と連携を取り受診援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域との交流や事業所の力を活かした地域貢献>
 屯田ふれあい交流会や冬まつり等の地域の行事参加や地域の人達等が参加する「地域交流会」の開催を通じて地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。また、中学生の体験学習やドックセラピー犬や地域の舞踊等のボランティアの受け入れ、定期的に発行する「グループホーム新聞」で日常生活の様子や事業所の取り組みを町内会への回覧で紹介するなど地域の人達に認知症について理解を得る活動を実践している。

<職員を育てる取り組み>
 事業所内で職員が中心となって、成年後見制度やアルツハイマー型認知症、リスクマネジメント等の研修会が年間計画を策定して実践されている。また、資格取得への支援や母体医療法人の院内基礎研修や事故防止対策等の研修が行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳を大切に、個性に合わせたサービス提供を心がけている。理念を踏まえ、地域の中での生活支援を意識したサービスをしていきたい。	事業所独自の理念をつくりあげ、その達成の為に個々の職員が年間目標を掲げ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内へのGH新聞の配布、地区行事への参加、地域交流会の開催、ボランティアの活用などで交流を図っている。	屯田ふれあい交流会や冬まつり等の地域の行事参加や地域の人達等が参加する「地域交流会」の開催を通じて地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生体験学習の受け入れや運営推進会議の中で、認知症の方の支援への理解をしてもらえるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みについて報告し、課題について話し合い、いただいた意見を参考にサービスの見直しを図っている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、サービス提供の状況や職員の研修の成果、火災避難訓練等緊急時の対応など具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員が講師となっている研修への参加、消防署職員による防災(避難訓練)や救急時の対応についての助言をいただき、サービスに活かしている。	市主催の研修会参加や包括支援センターと協力した研修会の実施等日常業務を通じた情報交換で連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会設置し定期的に会議を行ったり研修にも参加し拘束廃止を理解している。鍵をかけないケアにも取り組んでいるが、状況によりやむを得ず短時間一時的に施錠することがある。	不適切なケアやスピーチロックについて研修会や職員アンケートを実施していると共に身体拘束廃止委員会で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各系列のグループホームで委員を選出し、身体拘束廃止委員会を設け、高齢者虐待について話し合いミーティングを通して他スタッフへの周知も図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修への参加、ミーティングでの伝達、自己学習で学びを深めている。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安・疑問点が汲み取れるよう時間をとり、文章と口頭で説明している。また、理解されたか確認を後日としている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、利用者、家族の日頃の言動・様子から思いや願いを汲み取るようにしている。苦情相談窓口や連絡先について文書・口頭で説明している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置し、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングをし話し合い申し送りノートを活用している。個人面談も定期的に行い意見を汲み取れるようにしている。	個人面談を実施し、職員の意見を反映している。また、さらに上を目指す職員には、法人内に専任講師を置いて看護師等の国家資格取得への支援が行われている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや、向上心をもって働けるよう職場環境のあり方について配慮や工夫に努めている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得や法人内勉強会、外部の研修などの参加機会を作り、一人一人学べる場を設けている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、地域包括支援センターの合同研修などに参加して、交流の機会を作っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	地域連携部などからの情報を元に、本人の思いや不安を汲み取り、安心して過ごせる関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、希望を把握出来るよう耳を傾け、これまでの苦労や今までのサービス利用状況なども把握に努めている。また、センター方式記入に家族も加わり協力して本人を支える関係作りをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人、家族の思いを把握し、内容によって地域包括、関係機関のケアマネージャーとも連携をとれる様にしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さん一人一人を国民という立場におき、一緒に外出をしたり、レクリエーションを楽しんだりと暮らしの中で、共にいる時間を大切にしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のこれまでの苦しみ・悲しみも把握するように努め、共に本人を支えて行けるよう一緒に考え話し合うようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の面会時には入室でゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。又、友人への電話連絡の支援をしているが、人によって家族や友人の面会・電話も少なくなっている人もいる。	友人・知人が訪問しやすいように支援していると共に紅葉狩り、神楽岡公園での花見等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送り・カンファレンスで情報を共有し、必要に応じて声掛けやスタッフ間に入り良い関係を保てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心身状態の変化で入院となり利用終了した人も、病院と連携をとり状態を把握し家族の相談支援をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言葉に注意し思いを引き出すようにしている。暮らし方の希望・意向についても、本人や家族から情報を得るようにしている。	センター方式を活用して、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように職員が計画立案に取り組み外食やお祭り見物、誕生会等楽しみごとや気晴らしへの支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人や家族から継続的に情報を収集し、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し生活リズムの把握をする。又、日々の生活から観察を行いコミュニケーションを積極的に取り些細な変化にも対応できるように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ皆がチームとして一人一人の課題について話し合い、より良いケアで支援出来るように介護計画に取り組んでいる。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人や家族、医師や看護師の意見を反映している。また、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。また、職員は介護計画を良く理解している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事に対応した結果内容を具体的に記入している。介護計画をカードックスに入れ情報共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に応じ多様な側面からケアを行い、家族からの介護相談にも応じている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者個々の志向に応じてお祭りへの参加、外出支援を行い満足して頂ける様に支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	疾患に応じて専門のかかりつけ医での診察が受けられるよう支援し各医療機関と連携をとっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、常勤する看護師と医師の連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、母体医療法人と各医療機関の連携が密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中での利用者さんのちょっとした変化など看護職員へ報告、相談など行い、適切なケアを行える様に支援している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などしたときは入所生活情報を伝え、本人や家族が安心して治療できる様、スタッフが見舞いなど行き状況を確認したりして関係作りを行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	加齢や疾患から予測される状態について、入所時から本人や家族に説明し意向を確認して施設で対応出来る事について話し合いをしている。予測される状況について家族と話し合い、必要に応じて記録に残している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。また、常勤看護師による適切な支援がある。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的に勉強会を開いている。 消防職員による救急講習も行っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回の避難訓練を実施。利用者のADLの状態に合わせた避難方法や順序を話し合っている。また、法人内の大規模避難訓練に参加、近隣の方にも協力を依頼している。	スプリンクラーの設置が完了している。また、年2回以上の火災避難訓練や母体法人と連携したシュミレーションが行われている。また、防災用入居者情報を整備している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき丁寧な声掛け、対応を心掛けている。スピーチロックや不適切な言葉かけについて学びを深めていきたい。	接遇マナーの研修会や身体拘束廃止委員会、高齢者虐待防止の研修会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話からやりたい事を見極めて選択肢を出し、自己決定出来る様に支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の立場に立ってペースを大切に、押し付けるのではなく本人の希望に沿った支援をしている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、化粧、髭剃りをされ、外出時はお洒落をして楽しまれている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを考慮し、提供している。嚥下も考慮し、米飯、粥を出して支援、職員も一緒に食事をし、会話をしながら状態の変化も観察している。代替食の利用も行なっている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。また、一人ひとりの嗜好を把握し、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から食材の配送を受け栄養バランスの取れたメニューで提供している。嗜好や食摂に応じて食事形態を工夫している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、又は介助を行っている。状態に合わせ、歯科受診をすすめている。又、義歯チェック表を活用している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインの把握に努め気持ちよく排泄していただけるよう支援する。個々の力によって時間で声かけ、誘導を行い最小限のおむツ使用を心がけている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。また、オムツの使用を減らす取り組みをしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけ、毎日の体操・掃除で体を動かすよう取り組んでいる。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者さんの希望、外出などかなえられる時間帯で入浴できるよう支援している。入浴拒否される方にも時間をおいたり言葉かけ、対応工夫している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、拒否の強い利用者にも時間をかけて工夫した支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるよう努めている。個々の体調・希望の際には考慮し休息が取れるよう支援している。又、寝付けないときには、温かい飲み物を提供し安眠を促している。			
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携をとり処方内容の確認をし、変更時は記録、申し送りで周知、状態変化に注意していくようにしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえよう、過去に手がけていた趣味などを思い出して楽しんでいただけるよう支援している。役割や、楽しみごとを見出しきれていない人もいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があるときは、買い物やドライブ、家族の面会に行ったりと楽しめるよう支援しているが、個々のニーズに応じきれてない事もある。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、花見や紅葉見物等戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、ファイブスターやショッピングモールでの外食等気分転換や普段行けない場所への支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持してもらい、買い物などの時には本人に支払いが出来るように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いたり、家族・知人に電話して交流を持てる環境作りをしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール南向きにて天候によりカーテンを調整している。共用空間は季節の装飾をしている。	平屋建て2ユニットのグループホームで、施設内は広くゆったりしていて、リビングや廊下の壁には、行事参加の写真や習字・雛人形等季節毎の飾りつけが行われ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き一人になれる工夫をしている。夏はテラスにパラソル・イスを設置し外気浴を楽しまれている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し自宅からなじみの物を持ってきてもらい、居心地良く落ち着ける空間になるように配慮している。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋・トイレ・浴室に表札を目線に合わせてつけている。本人に自分の部屋だとわかるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホーム やすらぎ (ユニットこもれび)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・普段からスタッフや入居者同士のコミュニケーションを大切にし、それぞれのペースを尊重しながらゆったりと生活できるような関係づくりを心がけている。 また、ボランティアや地域の方の協力によるレクリエーションやお祭りへの参加など、スタッフが交代で企画しながら共に楽しむ機会を持っている。
 ・職員個々で年間の目標・行動計画を立てて、入居者との関わりや業務改善など課題に取り組み、面談の中で振り返りを行なっている。 資格取得や内外の研修に積極的に参加し自己研鑽できる環境を作っている。
 ・心身の状態変化に早期に対応、関係医療機関と連携を取り受診援助している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902611&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳を大切に、個性に合わせたサービス提供を心がけている。理念を踏まえ、地域の中での生活支援を意識したサービスをしていきたい。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内へのGH新聞の配布、地区行事への参加、地域交流会の開催、ボランティアの活用などで交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生体験学習の受け入れや運営推進会議の中で、認知症の方の支援への理解をしてもらえるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みについて報告し、課題について話し合い、いただいた意見を参考にサービスの見直しを図っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員が講師となっている研修への参加、消防署職員による防災(避難訓練)や救急時の対応についての助言をいただき、サービスに活かしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会設置し定期的に会議を行ったり研修にも参加し拘束廃止を理解している。外出希望を把握しながら寄り添い支援し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各系列のグループホームで委員を選出し、身体拘束廃止委員会を設け、高齢者虐待について話し合いミーティングを通して他スタッフへの周知も図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加・勉強会・自己学習を通して理解を図っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安・疑問点が汲み取れるよう時間をとり、文章と口頭で説明している。また、理解されたか確認を後日としている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情相談窓口を説明。意見箱を設置し利用者の思いや願いを汲み取れるようにしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談にて意見を汲み取っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で就業規則を設け、職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得や法人内勉強会、外部の研修などの参加機会を作り、一人一人学べる場を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外への講習の参加で、各地の同業者と交流や意見交換等により得た情報を、質の向上に取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関ケアマネと連携をとりながら、情報収集し面談を行い思いを汲み取る努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係機関ケアマネと連携をとりながら、ご家族の不安や要望を確認、対応に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式に記入していただき、できる限りの情報を得て、家族や本人がまず必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の「出来る事」「出来ない事」を把握してお手伝いをして頂いたり、共にいる時間を大切にしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議や面会時で、家族と情報交換しながら、又家族の悩みを聞くなど、共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の定期的な面会はあるが、入居者によっては、親戚や友人の面会が少なくなっている人もいる。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ間で情報共有しながら入居者同士が良好な関係を保てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心身状態の変化で入院となり、利用終了した時も系列病院と連携をとり状態把握、家族の相談支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で表現しやすい雰囲気づくりをして、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族から継続的に情報を収集し把握に努めているが、馴染みの暮らし方を引き出しきれない方もいる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化を見極めて個々にあった作業が出来るように支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を考慮しながらセンター方式を活用し、モニタリングを行いアイデアや意見を出し合いながら、介護計画作成に活かしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をカードックスに入れて情報共有し、体調面、生活状況等 個別に記載し、介護計画の見直しに活かしている。また、連絡ノートを活用し、スタッフの周知を図っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、買い物や外出の支援をしたり、受診介助等対応している。また、必要に応じて家族の介護や健康相談に応じたり相談窓口を紹介している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の生活背景や嗜好に応じて地域の行事に参加、楽しめるよう支援をしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の病院による診察や疾患に応じてかかりつけ医での医療を受けられる様、受診介助等支援し各医療機関と連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が管理者として勤務しており情報交換をしている。日頃の健康管理や医療面の相談、対応を行なっている。24時間連絡体制をとり、状態の変化にも対応している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などしたときは入所生活情報を伝え、本人や家族が安心して治療できる様、スタッフが見舞いなど行き状況を確認したりして関係作りを行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	加齢や疾患から予測される状態について、入所時から本人や家族に説明し意向を確認して施設で対応出来る事について話し合いをしている。予測される状況について家族と話し合い、必要に応じて記録に残している。			
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的に勉強会を開いている。 消防職員による救急講習も行っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回の避難訓練を実施。利用者のADLの状態に合わせた避難方法や順序を話し合っている。また、法人内の大規模避難訓練に参加、近隣の方にも協力を依頼している。			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	GH理念を念頭におき、プライバシーを配慮し、不適切な言葉かけが無いよう意識づけをしている。			
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を言いやすい雰囲気作り努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カンファレンスやモニタリングの中で、入居者さんの過ごしやすい環境を作る為、話し合っている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容サービスにて、本人の好みに合わせ、カットやカラー・パーマをして頂けるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜と一緒に収穫し、食事やおやつ時に提供している。職員と一緒に食事をして、配膳や食器洗い等を入居者さんと一緒にこなしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食チェックし、摂取状況により補助食を提供している。水分も本人の好みの物を取り入れ摂取して頂けるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きうがいの声掛けを支援し義歯の手入れをしている。歯科受診も対応している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間ごとのトイレ誘導等で、失禁による不快感を減らせるよう支援している。一時的にオムツを使用しているが状況が改善された際は速やかに使用中止している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況を確認するとともに、朝の氷水飲用をはじめとする水分励行ヨーグルトや繊維質の摂取をすすめ状況により下剤調整している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望や外出予定など、生活状況に合わせた時間帯に入浴できるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態に応じ、日中も好きなように休息をとっていただいている。夜寝付けない時は足浴や温かい飲み物を提供し安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携を取り、処方内容の確認をし変更時は記録、申し送り周知し状態観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割意識を大切にしながら家事を手伝って頂いたり、趣味の時間を楽しんでいただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩や近所のドライブに行き、楽しめるよう支援している。家族の協力を得て外食へ出掛けられたりもしている方もいるが、個々のニーズに応じきれないこともある。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用は少ないが入居者の状況に応じて、お金を所持して買い物支払いなど出来る機会を作っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にいつでも電話使用して頂いている。また、家族からの手紙を読んで楽しめるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダが南向きである為、日の光に合わせて、カーテン等で調節している。又、季節ごとに施設内を装飾したり、その時々で咲いている花を飾り、入居者さんに季節感を味わって頂けるようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関の椅子などで入居者同士やご家族と過したり、一人で過したりされる方もいる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの家具、仏壇や位牌などを居室に置いたり、趣味の鉢植えや花を置いたり、家族の写真を飾るなど思い思いに居心地良く過ごされている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレや浴室等には目印を付け、わかりやすいように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ

作成日: 平成 23年 1月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6 7 36	利用者の入退去やスタッフの異動が少なく、馴染みの関係が築きやすい反面、馴れ合いにより不適切な言葉がけ、スピーチロックが出てしまうことがある。	1. 高齢者虐待防止やBPSDの理解と対応について職員が学びを得て、自己の対応についての振り返りができる。 2. 職員相互の気づきを話し合える環境を作り、ケアに活かすことができる。	1. 身体拘束廃止委員中心に、職員主体での施設内勉強会の実施 接遇チェックリストを用いて、定期的に自己の対応の振り返りを行なう 2. ミーティングやケアカンファレンスの中で、業務改善にむけての話し合いや、個々のケース対応について情報共有していく	12ヶ月
2	20 38 49	ユニットや小グループでの外出の機会はあるが、集団での外出行動になじまない方もいる中、個別の外出希望に応じきれっていない。	短時間の近所散歩から買い物外出まで、利用者個々のニーズに対応することで、気分転換や楽しみの機会を増やすことができる。	朝のカンファレンス活用で業務分担をしながら、個別外出対応を検討していく。 ミーティングの中で業務の見直し改善をしていく 短時間の散歩を多くしていくなど、出来るところからはじめていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。